

11月の生活表

2022年 11月

聖マリア幼稚園

年主題：つながって ～今、わたしを生きる～

月主題：分かち合う

・保育日数（20日）

月目標：<3歳児>・神さまが全てのものを創り育み、愛してくださっていることを知る。

・友だちとイメージを合わせながら、一緒に作ったり、ごっこ遊びをすることを喜ぶ。

・秋の自然物に触れながら、いろいろな表現をする。じっくり取り組み、満足感を味わう（保）教職員間、保護者との連携を図りながら生活習慣や子ども同士の関係性を深く読み取る。

<4・5歳児>・神さまの恵みを感謝して分かち合い、共に賛美し、祈りを合わせることで表す。

・友だちと思いや考えを合わせたり、思いや考えの違いを調整し合って遊ぶ。

・一人でも、仲間と共にでも、じっくり取り組む楽しさを味わう。

（保）教職員間で聖書に立ち返ってクリスマスを受け止め、子どもと迎えるアドヴェントに備える。

無事に運動会を終えた後から直ぐに、クリスマスという文字が現れました。後2ヶ月です。当園での山場を迎えます。そして、新年に向かいますが、その前に「感謝祭」を通して、自分が神さまから不思議な「命」を授かったことに出会います。祖父母の存在を知ることによって自分が此処に在ると言うことに繋がるのです。神様が私たちにくださった「命の息」。人間動植物どんなに小さな生き物にも。それが益虫・害虫に関わらず授かったものなのです。幼稚園のお庭にも現れた「イラ蛾」の幼虫、蚊、アブラムシ・・・殺虫剤をかける前に「ごめんね」と心の中でそっと呟きます。だって、虫には罪がありませんから。毛嫌いし乍も、血を吸い葉を食べて懸命に生きようとしている命の存在に気づきたいものですね。さて、命の出発から子どもたちは何年を過ごしてきたのでしょうか。体の成長と共に、心の成長はいかがでしょうか。日々の自由遊びと共に、設定保育の中で育まれる子どもたちの経験・憧れ・意欲・挑戦・葛藤・試行錯誤・満足・さらなる挑戦etc.そして、お友達を知ることによって社会性を育み、今成長の真っ只中にある子どもたちの大切な内面の重要な目に見えない息吹が培われているのです。この2学期に経験することが、今までの経験に積み重ねられて、幼児期それぞれの学年において「充実期」と言われています。今日の経験が明日への基礎となり、後退しつつも前進していけることが、個々の成長が促される為にとっても大切なことです。さらに、その子どもたちの活動を先生がどのように認めていくのか、親御さんが「あ！練習頑張ったからこんなこともできるようになったね」「こんな言葉遣いが出来るようになった」「お友だちのことも考えられるようになったね」など。双方から認められることの大切さです。しかし、〇〇ができるようになるために〇〇も、〇〇も・・・と未就学のうちから、詰め込まないようにして欲しいのです。さまざまな機会は必要でしょう。しかし長続きしないかもしれない「こと」にはどうぞ慎重に。お子さんの主体性を大切にしつつ、無理のない導きで、時々背中も押しつつ、元気に楽しく物事に取り組めるようになってほしいと願います。子どもたちを見つめる心に私たちは「ありがとう」をいつも心に刻んでいたいと思います。

《チャレンコーナー》

月主題：分かち合う

月聖句：私の隣人とは誰ですか。（ルカによる福音書10：29）

「隣人とは誰ですか？」「隣人」とは、一義的には「他人」のことです。けれども、聖書で用いられる「隣人」とは、もっと深い意味を含んでいます。それは、「深い交わりを結んでおり、その人に、責任と愛情を持つ人」です。私たちが日常で使う言葉だと、「仲間」や「親友」、時には「家族」を指すかもしれません。

イエス様の時代、「隣人」が何かというのは、分かりやすい質問でした。それは「親族、同部族、同民族」でした。「異民族、他宗教、異邦人」は、「隣人」とは正反対の存在でした。「仲間」がはっきりしている分、「敵」もはっきりしている、そんな社会でした。

ある時、イエス様はこんなたとえ話をされました。「あるユダヤ人が追いはぎに遭い、傷つき倒れていた。通りかかったユダヤ人たちは巻き添えに遭うのを恐れて、逃げていった。そんな時、ユダヤ人と敵対関係にあるサマリヤ人が通りかかった。彼は、かわいそうに思い、傷ついたユダヤ人を助けた。」そして、このサマリヤ人こそが、隣人だと教えられました。つまり「隣人」とは、予め決まっているものではなく、愛の交わりによって「なる」もの、自分から「なりに行く」ことによって、隣人の交わりが広がるのだと、教えられたのです。

大人になると、なかなか人間関係が広がりません。「仕事関係」などの決まった交わりで終始してしまいがちです。子どもたちは、すぐに友だちになります。友だちが増えると、とても嬉しそうです。折角、幼稚園と言う場で、私たちは出会いました。子ども同士だけでなく、保護者同志も交わりを広げ、深めたいと思います。きっと、温かい交わりになることでしょう。

おたんじょうび おめでとうございます

<生活指導>

☆ 身近な秋の自然に触れてみましょう。

- ・落ち葉や木の実拾い、山色の変化等から季節の移り変わりに関心を持ちましょう。
- ・巡る季節の営みに気づき、家族で話し合っ神様の業の不思議を賛美しましょう。

☆ 私たちの為に働いて下さっている人々に感謝しましょう。

- ・身近な人、特に父母の仕事を知り、そのお陰で毎日の営みが成されていることに触れ、感謝の気持ちが持てるように話し合ってみましょう。
- ・折に触れて家族で話し合う中で、様々な職業に関心を持ち、そのお陰で社会が成り立っている事に気づくような機会を得てみましょう。

☆ ご先祖様からの命の繋がりを得て、私達が今在る事を再確認し感謝しましょう。

- ・幼稚園で祖父母をご招待する機会がしっかり生かされるように、なかなか会えない孫と祖父母とが共に楽しい時間を過ごせるよう、また感謝の時間となるように、子ども達を交えて何か良き計画を立ててみましょう。
- ・子ども達の誕生から今迄の成長に感謝し、更にこれからのお導きに祈りを捧げましょう。

☆ 体調を整えましょう。

- ・昼夜の寒暖の差に対応できるよう、こまめに衣服の調整をしましょう。
(ことばをかけながら、本人にも気づかせましょう。)
- ・保護者は上着を持ち帰らず子どもにお預けください。
(自分の物である認識=大切にす たたむ事で整理整頓の良い癖を)
- ・風邪(咳・鼻水・腹痛等)の予防には、帰宅後の手洗いとうがいが大切です。
ご家族みんなで、毎日実行してみましょう。
- ・バランスの良い食事・十分な睡眠・朝食の摂取に心がけ、抵抗力を養いましょう。

☆ 静かな秋の夜長のひと時、落ち着いてお話や絵本に親しめるように心がけましょう。

- ・子どもが自分で読めても、大人が読んであげることの大切さを知り、時間と場を共有して楽しみましょう。(小学校低学年迄は読んであげましょう。)
- ・大人は、子どものそばで場を共有することにより、成長発達している子ども達を肌で感じとり、その大切な宝物を下さった神様に感謝しましょう。

<クラス便り：各担任より>

<花組>

「今日って暑い?」「暑くないーい!」「今日って寒い?」「寒くない〜」そんなやり取りをして...今日は何て過ごしやすいくて気持ちの良い秋の日なんだろう〜ということ子どもたちと分かち合い、その日のランチタイムを屋上で過ごすことを提案すると、子どもたちは...「えー!」「いい〜!」と瞬時に溢れんばかりの笑顔を輝かせてくれました。その表情や反応が本当に嬉しくて可愛らしくて、今日の日もまた特別な一日になりました。屋上に吹く風は何とも気持ち良くて、優しい眩しさの日差し。平安神宮の立派な木々が風に揺すられてザワザワと歌うような心地よい音...「聞こえる?」と子どもたちに聞いてみると、シーン、みんなが耳を澄ませて「聞こえる!」とまた笑顔。ただただ、幸せだな〜と感じるひと時でした。

春・夏・秋と花組さんの子どもたちと季節を辿り、もう11月です。先日、10月〇日...もうすぐカレンダーが終わるので、では次は何月かな?と子どもたちに聞いてみると...いつも元気な花組さんがシーン...それでは、とみんなで数を数えていきました。「1 2 3 4 5 6 7 8 9 ~10...11」そこでもう一度、「10月が終わったら次は何月でしょう?」「.....」おや?では、と恩物を取り出して...「一つ、二つ.....」と並べて、続いて「1 2 3 4 5 6 7 8 9 ~10...11」と数えて、はい!ではもう一度「10月が終わったら次は何月?」すると、ようやく「11月?」とポツリ、これでよし!いやいや、まだまだ。花組の保育室の京都市動物園のカレンダーを1月から動物さんを交えながら順に確認してゆきました。毎日、シールお帳面(カレンダータイプ)にシールを貼り、お名前準備では何月何日何曜日を毎日確認、それでも、改めて聞かれると、ハテナ?ということですが、これは大変!もっと確認しながら、色々な数に触れながら、身近な数を意識して過ごしてゆかなければいけない、と危機感を感じました。みんなで遊びや設定保育のなかで色々なことを共有して楽しみながら分かち合い学んでゆきたいと思います。どうぞご家庭でも意識してください。

秋はどんどん深まってゆきます。子どもたちの目に映る秋は?綺麗?美味しい?気持ちいい?どんな思いを抱くのでしょうか。マリアでの大切な秋に感じて欲しい思いは『ありがとう』です。感謝祭に向かって、私たちの周りにある沢山の『ありがとう』に心を留め、『ありがとう』を感じ『ありがとう』が出来ることはこの上なく幸せなことです。今一度、沢山の身近な『ありがとう』を分かち合いながら、子どもたちと感謝祭のご準備を大切にしたいと思えます。主に感謝。

<赤組>

小さな手に金木犀のお花をそっとのせて登園する子どもたち。木々も少しずつ秋色に変化し始め、段々秋が深まってきました。子どもたちもそれぞれ「秋」を感じている様です。赤組さんにやってきた第一号の「秋」は20個ほど袋に詰めてきてく

れた団栗でした。休日に鴨川で100個くらい拾ったと話してくれ、幼稚園にお裾分けするために綺麗な団栗を厳選して持って来てくれたようです。その気持ち嬉しかったよ。ありがとう。ふと、窓の飾りが変わったことに気がついた子どもたち。

「これは紅葉だよ」と興味をもっていました。分級時に紅葉や银杏の葉は色が赤や黄色に変わっていくことをお話すると「あ、うちの紅葉は青葉だったよ」と、他にどこで見たことがあるのかを考え、それがまだ緑であることを教えてくれるお友だちもいました。また、この季節は園庭の桜の葉が風に揺られたたくさん落ちるので毎朝落ち葉を集めています。それを見ていたお友達が「何してるの?」と聞くため「落ち葉がたくさんだから集めてるんだよ」と言うと「落ち葉ってなに?」と質問がきました。私にとって当たり前のサイクルでも確かに落ち葉になることは自然の不思議です。そのことに気がつき疑問をする子どもたちに私も敏感になり共に学んで教えてあげたいと思いました。こうして、周りの環境の変化に反応し気がつく子どもたちと一緒にまだまだ秋を楽しみたいと思います。

2学期が始まって2ヶ月が終わろうとしています。運動会を終え、一回り心身共に大きくなった赤組さんに任せたことが2つあります。1つ目は、お部屋の電気を消すことです。分級後、ホールに移動する際、身長が高くなり少し背伸びをするとスイッチに手が届くようになった赤組さん。つけたままはもったいないと話、しっぽ当番に消してもらってからホールに移動することにしました。出来ることが増え、喜びながらお当番のお仕事をやってくれています。2つ目は、昼食の準備です。今まではお当番さんに「お仕事よろしくね」や、机を布巾で拭くタイミングも声をかけていました。繰り返し過ごす中で昼食の流れを掴んできた子どもたち。自分たちで今自分は何をすべきか気が付いて、行動して欲しいと願い、子どもたちに事前にこれからはお当番に任せることをお話し、見守っています。勿論お喋りに夢中になったりお当番であることを忘れているお友だちもいますが、様子を見てみると、お当番の1人が「何か忘れてる気がする、、」と気付いて相方に声をかけにいき助け合っています。また、気付いたけれどお友だちに何て言ったらいいのかわからず困っている様子の時は私も「思ってること、合ってるよ」などと声をかけ、その場でかける言葉が考えられるようにサポートしています。

この様に子どもたち同士の関わりが密になってくると時にはトラブルも起こりません。けれど子どもたちはそのぶつかり合いを経て成長していることが最近よく見られます。「〇〇ちゃんの隣がいい」「ここに座りたい」と座席を巡って争い、鋭い目つきでお友だちを見ている場面も多々ありました。その都度お話を聞いたり声をかけて援助をしてきましたが、子ども同士で解決する場面も見られ始めました。隣に座りたかったお友だちの両サイドが埋まっていた時「お昼ご飯の時にはお隣にし

ようね」とご自分たちで考え、先を見通しての会話でその場が解決しており感心しました。日々の生活の中で子どもたちは「この場面だったらどうしたらいいのかな」と考え、それを生かすことが出来ているのだと感じました。また、5人の少ない集団ですが、集団でまとまって遊ぶ姿も見られました。赤組さんだけで園庭で遊べた日、「おにごっこ」を提案し、やってみることにしました。鬼を決める「おに決め」を知っているお友だちに任せて子どもたち主体で進めました。子どもたちのリクエストで、氷おに、バナナおに、色おに、代わりおに、、、数種類のおにごっこで遊びました。どれも誰かはルールを知っていたため途中で間違っているお友だち（タッチされたが凍っていないなど）を見つけても怒らず、丁寧にルールを教えてあげていたりしてルール性のある遊びもしっかりそのルールに沿って遊べたのでみんなで楽しめました。そして、こうしてクラスとして遊び込めたことを、嬉しく思いました。

11月には「感謝祭」があります。私たちの周りには「ありがとう」をすることがたくさん溢れています。何に感謝する？子どもたちと考えていこうと思います。

毎日子どもたちと共に歩める事、そして私たちをいつも見守って下さっている神様に感謝したいと思います。

<緑組>

「せっかくあかぐみさんがあ～...BOXとかをふいてくれたのにい...」とポロポロ涙。「すいとうのおみず、こぼしちゃったの～おうおう」号泣。思わず、その子の頭を撫でまわしてしまいました。自分よりも小さい友達が雑巾がけをして、きれいにしてくれたお場所を自分が汚してしまったことを申し訳なく思って泣いている...。なんと愛おしい姿なのでしょう。「大丈夫、大丈夫」と頭を撫でる担任のまわりに「どうしはった～ん？」と幾人もの子が集まってきました。心配そうに尋ねる子に訳を話している間に、事情を察した緑組の子が濡れた床を綺麗に拭いておいてくれました。涙で濡れた顔がホッと笑顔になる。友達のいろんな姿を敏感に捉え、困っている人のために親切ができる...そんな瞬間を目のあたりにすると幸せな気持ちになります。明日から11月。就学前検診の案内が各ご家庭に届くころだと思います。子どもたちにも運動会を終えたあたりから、「小学校」の話をするようになりました。入学まで半年...9人の緑組ですが就学先も異なり、1人で新たな環境に身を置く子も数名いるのです。「小学校」を楽しみにする一方で、慣れ親しんだ環境から離れることに、不安を覚えることもそれぞれにあるはずです。そうした子どもたちの気持ちに「大丈夫」と応えられるように、幼稚園の間に私たちが子どもたちと一緒に準備できること...文字や数字の感覚を豊かにしながら、生活習慣の自律を促すことではないでしょうか。「感覚を豊かにする」とは、決してworkbookをする...ということではありません。先日幼稚園の屋上にお昼ご飯を食べに

行こうとした時のことです。何もない屋上でどうやって食事をするか？

机なしで食べる方法もあるし、自分の椅子を机代わりにすることもできる。でも座面が狭いので、お弁当がのせられるかしら？ベンチを使うといいかもね。などと話していると「ベンチがいい～～！」と子どもたち。では、「ベンチを幾つ運べばいいのでしょうか？？」座る感覚でいけば「3, 4人！」という答えも分からなくもありません。でも、用途はお弁当を広げるため...と考える糸口を子どもたちに投げかけます。「ええ～2人？いや3人3人！！」と考えが出てきます。では、実際にベンチを前にして座ってみる。「3人では狭くない？」「狭くな～い」「でも、ここにお弁当箱とコップを置くんだよ」と話しているうちに「そんなん狭いやん、やっぱ2人やなあ」と「じゃあ、2人でベンチを使うなら全部で幾つのベンチを持っていかないといけないの？」と...。「えっと～9人やしい」「ちやうで、朋子先生もいれてあげて！」と10人で使うベンチの台数を頭を捻り捻り、実際にベンチとにらめっこしながら答えを編み出したのです。「10人の子どもが2人ずつベンチに座ります。全員が座るためにはいくつのベンチがいるのでしょうか？」...文章問題にすれば、こんな立派な算数の問題が出来上がるのです！実は、お家でのお手伝いもこうした「感覚を豊かにする」経験そのものに成り得るのです。例えば、お箸を家族分用意する、洗濯物を引き出しの左から何番目の何段目にしまう...時計を目当てに、スケジュールを考える...など、「感覚を豊かにする」ことは、子どもの生活習慣を自立へと向かわせることにも繋がっていきます。少し前から気になっていたのは、家から持って来る物、持って帰るも物の「忘れ物」です。さらにその理由が、「だってお母さんが忘れた」であることです。そうでしょうか？自分の物は自分で責任を持たねば持ち物の準備・管理が身につきませんよね。これまでは、それで良かったことも、これから先のことを考えたときお家の方が、負担にならない程度に子どもたちに任せてあげることもお忘れなく♪です。

さて...感謝祭です。「感謝祭ってなあに？」「劇したり、歌うったり、リズムバンドする～」と確かにお集まりそうです。でも、本質は「ありがとう」なのだ。なにより命あることに...そして大切な家族に...自分たちの生活を守って下さる多くの方々に...多くの「ありがとう」の先に...クリスマスが待っているのです。